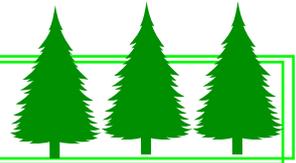


みつぎ便り



第169号 10月号 令和2年10月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

ジニア

和名は百日草で、長い期間咲くことから付けられた名前です。今春はコロナの影響で、花壇の花苗配布がなかったため、見次の会メンバー各自が種を用意し自宅で育てることになりました。種まきは小学校のアサガオ以来。種売場で目に入ったのがカラフルなジニアでした。小さいながらもたくさんの花びらで覆われたキク科のジニア。花苗を育てたことはあっても、種まきは初めてです。



花壇でかわいらしく開花する姿を思い浮かべながら、うまく咲いてくれることを祈りつつ種を選びました。元気に育った二十株ほどを公園の花壇に移植しました。三分の一ほどが蕾を付けてくれてホッとしました。百日咲く名の通り、今もまだポート小屋脇の花壇で小さな花を咲かせています。

(朋)

サフランモドキ

見次公園裏交差点入り口の東側花壇、そしてポート小屋北側の花壇の池側に鮮やかな桃色の花が見られます。調べたところ、サフランモドキのようです。中央アメリカ原産で日本には江戸時代末に渡来しました。江戸時代にはパエリアなどに欠かせない素材としても有名なサフランと誤認されていたようで、明治時代に誤りであることが確認されまぎらわしいことを示す言葉擬き(もどき)を付けられサフランモドキと名付けられました。サフランはアヤメ科で



サフランモドキはヒガンバナ科ですので、違う科となります。地下に球根を持つ多年草で、花期は六〜十月です。繁殖は分球によるものが主ですが、実生(みしょう)も可能なようですので、見次公園には鳥などが運んだのでしょうか。

ポート小屋北側の花壇のサフランモドキのすぐそばには、同じヒガンバナ科に属するタマスダレ(玉簾)が一輪咲いています。

(薫)